

【講演 3】『ライティング／キャリア支援における e ポートフォリオ活用』

小川 賀代氏（日本女子大学 理学部 准教授）

このタイトルを事務局に提出したときには、まだ話の中身が決まっておりましたが、本シンポジウムの趣旨ライティングですので、タイトルにライティングと入れてみました。しかし、配付されているスライドのコピーからもわかるように、私はこれまで、キャリア支援を目的としたeポートフォリオシステムに携わってきましたので、これまでの経験をお話させて頂きながら、ライティングと絡められるところがありましたら、触れて行こうと思っております。

司会の毛利先生からもご紹介いただきましたが、簡単に自己紹介をさせていただきます。

私の専門は応用光学で、教育学部出身でもございませんし、教育について専門に勉強してきた者でもありません。研究でシミュレーションプログラムを書いていただけの、普通の物理系の教員でした。

しかし、私が大学教員になりたての2001年頃から、大学にも競争的資金獲得の波が押し寄せ、G P の予算獲得のためには、大学もeラーニングをやらなくてはならない状況になりました。年輩の先生から、「あなたプログラムができるんだから、eラーニングもできるわよね」と言われたのがきっかけで、この分野に携わることになりました。おかげさまで、性分にあっついまして、本も出版させて頂きました。もしポートフォリオに興味のある方がいらっしゃいましたら、読んでいただけると、うれしいなと思っております。

前半のお二人の先生方は、ライティングが中心のお話でしたが、私のほうはeポートフォリオについてお話させていただきます。きょう一番最初に中澤先生から、この取り組みの中でもeポートフォリオを取り入れていますというご紹介があり、将来的にはキ

ャリアのほうにつなげていきたいとおっしゃってましたので、私どもで構築したキャリア支援のeポートフォリオについて、ご紹介させていただきたいと思います。

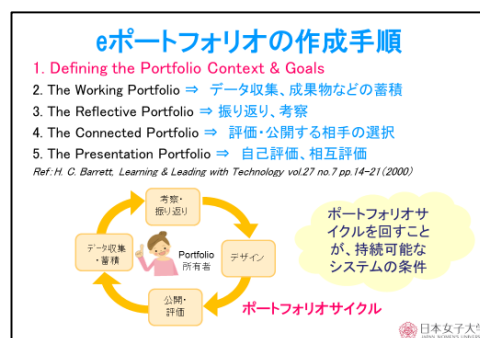
ここにご参加されている多くの方が、ポートフォリオというものをご存知だと思いますが、教育におけるポートフォリオの話を始めるに当たって共通認識を持っていたほうがいいと思いますので、まずはポートフォリオの説明をさせていただきたいと思います。

ポートフォリオというのは、もともと「紙挟み」という意味で、情報を蓄積したものをイメージされる方が多いと思います。しかし、教育で言うeポートフォリオは、

単なる情報の蓄積ではなく、こちらの5つに従って作成していきます。まずは

一番最初にやらなくてはいけないことは、目的、目標を決める、ゴールを設定することです。これはポートフォリオに限らず、高橋先生の話にも、森先生の話にも、まず自分が何をするかといったときに、「目的を明確にする」ことがキーワードとしてちらちら出てきていたと思います。そもそもポートフォリオというのは、ツールなので、あるから何か役に立つというものではなくて、やはり意図的に使わないと何も生まれてきません。まずは明確な目的を持つことが一番最初にやるべきこととなります。

そうしたら、次にその目的に応じて、自分が勉強したこと、成果、資料などのデータを蓄積します。その後、この蓄積したものを考察、振り返ります。高橋先生のところのフリーペーパーをつくる時の話とまさに同じ状況だと思います。まずはデータを集めて、そこからどういうものを外に発信していくべき



なのかということ振り返ることになります。

振り返った後、それを外に発信するためには、取捨選択をして、「見せる」というデザインが必要になります。そのデザインしたものを、今度は公開し、自己評価や他者評価を行います。その結果を踏まえて、また自分の目的に向かって、データ収集してと、繰り返して行っていきます。これは、ポートフォリオだけでなく、前の先生方のお話にありましたが、ほとんど同じようなことを繰り返していると言えるのではないかなと思います。私は、どちらかというと、情報システム屋さんなので、システム寄りの言い方をすると、やはり持続可能なシステムとするときには、このようなサイクルが上手に回っていないと、せっかく入れたシステムでも、うまく活用が進まないということになるかなと思います。

ポートフォリオサイクルについて説明しましたが、もう一つ、ここで共有したいのは、ポートフォリオの種類です。

ポートフォリオには、いろいろな側面があり、色々な人が色々なものをイメージしてしまいます。基本的には、先ほどのポートフォリオサイクルが回る仕組みであれば、ポートフォリオ、それを電子的に使っていれば、eポートフォリオ、と呼んでいいと思います。

今いろいろな大学で、最も取り入れられているのが学習ポートフォリオです。学習ポートフォリオは自己の学びを深め、次の学習へつなげていくために使っているところが多いと思います。しかし最近、ポートフォリオを学生がどういう学びをしてきて何ができる人物なのかというエビデンスとして用いているところが多くなっているかなと思います。なので、日本の高等教育機関においては、この学習ポートフォリオというのがかなり多くの大学で導入がされております。

次が、ティーチング・ポートフォリオです。これはまだ国内ではなかなか進んでいないのが現状です。大学の先生は、自分のやり方に自負があるので、人か

ら何か言われるのが好きじゃない人が多いかなと思います。それもあり、FDの取り組みを進めなくてはいけないと言われていながら、ティーチング・ポートフォリオはほとんど進んでいないのではないかなと思います。本学でも、ティーチング・ポートフォリオは使用していません。現状は授業アンケートをとり、他の教員の授業を参観に行く程度です。これも、おいおい進まざるを得ないのかなと思っています。海外ですと、ティーチング・ポートフォリオは進んでいて、ベストティーチャーが選出されて、ホームページにその先生のポートフォリオが載っているような大学も見られます。

そして、3つ目がキャリアポートフォリオになります。キャリアポートフォリオは、ただ学習を深めるためというよりは、こちらでも目指されているような、入学してから卒業するまでに至って、社会人になるためのトータルな力を身につけていくツールがキャリアポートフォリオになります。

これら3つは、どれもポートフォリオサイクルを回すことが大前提になってくるものです。薄い色にしてあるショーケースポートフォリオは、芸術系や建築系のように自分の作品を見せるためのものとして使っているのです。ご自身の中では、ポートフォリオサイクルを回すということはあるかなと思うんですけども、仮に高等教育の機関の中のショーケースといったときには、どちらかというと、成果物が並んでいるようなものを指すことが多いと思いますので、グレーにさせていただいております。

今回は、キャリアポートフォリオについての話をさせていただきたいと思います。まずは、海外の事情を少しだけお話しさせていただきます。

2012年に実施されましたアメリカの調査では、回答した28%の高等教育機関で90から100%の学生がeポートフォリオを作成していると答えています。2013年のオンライン調査では、雇用者に対して行った調査には83%の雇用者が学生の知識及び技術の保証にポートフォリオは有用であろうという回答が得

られております。アメリカのほうは、やはりポートフォリオになじみがあって、その人が何を学んできた人なのかということを見るためのものとして普通に活用されているんだという背景がわかります。でも、実は、この83%が有用であるといっていますが、別の調査だと、必要だと思うけれども見ているかと聞くと、半分ぐらいしか見ていないというのが実態のようです。

このアメリカでは、ポートフォリオ自体は、ほとんどの大学で取り入れられていると思っていいと思います。特に、キャリアポートフォリオに力を入れている大学で一番最初に名前が上がってくるのが、フロリダ州立大学になります。

こちらが、そのフロリダ州立大学のトップページになります。ここに、優秀なポートフォリオ

の名前が出ています。もちろんここからクリックすると、1位だった方のポートフォリオに飛べます。このコンテストでは、奨学金も出しています。確かフロリダ州立大学の場合は、1位になった人には500ドルの奨学金が出ていると思います。ほかにも、ケネソー州立大学とか、クレムゾン大学、あとは普通に学習ポートフォリオの延長でキャリアまでつながっている大学は、本当にたくさんあります。

フロリダ州立大学は、1997年に学長のイニシアチブでスタートしたものです。2002年からスタートして、今はキャリアセンターが中心となって行っています。キャリアセンターのスタッフがアドバイスもしてくれますし、キャリアアドバイザーからのコメントも受けることができます。それらを参考にポートフォリオを作成し、就職活動に臨んでいます。このフロリダ州立大学は、大変熱心なので、企業や学生に

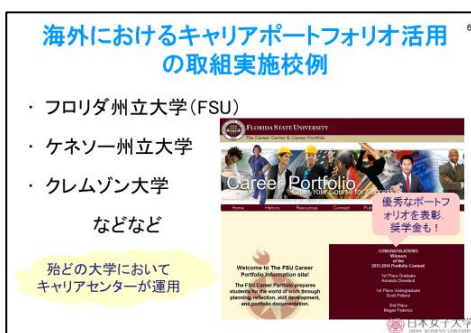
追跡調査を行い、レポートとしてWebに上がっていき、かなり力が入った大学さんだなというのはサイトからもよくわかります。

あとケネソー州立大学さんも、キャリアポートフォリオ専用のポートフォリオを運用していますし、クレムゾン大学のホームページには、何年間分の学生さんの優秀なポートフォリオが表示されています。もちろんeラーニングも北米で広まって、日本に来たものですが、キャリアポートフォリオについても先行しているところがたくさんあります。

一方、日本ではどうかというと、ここ最近、文科省の競争的資金で、キャリア教育に関係するようなものもたくさんあります。平成21年から始まっていて、文科省のページに行きますと、採択された学校の取り組み例があり、タイトルにeポートフォリオ何々とか書いてあるところも、すごくたくさんあります。ざっと見ただけでも、100大学ぐらいはポートフォリオが入っているんじゃないかなと思いますが、ここの大学のこのポートフォリオうまくいっているよねというところがごろごろあるというような状況ではないかなと思います。平成21年か22年ぐらいに行われた、文科省が放送大学に委託して行った調査だと、ポートフォリオの導入率は現在のところ30%を超えているというのが現状のようです。

こういった背景として、日本においてキャリア教育の重要性が2011年ぐらいから熱心に言われるようになっていことがあげられます。先生方、皆さんご存知のことだと思いますが、2011年よりキャリア教育が高等教育機関において義務化されました。「社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力」というのをキャリア教育でつけさせなさいというふうに、文科省から答申で答えられているかと思うんですけども、その「力」というのをかみ砕いて表現しているのが、ここに示している「力」なのだと思います。

ここに示している力について、どうやってこれを育成していくのか、どうやってこの力がついたと評



価していくのかということで、eポートフォリオが使えるかもと注目を集めています。

このような力は、テストで判断できるようなものではなくて、やはり先ほど来、いろいろ先生方が学生さんたちに指導しているような内容を積み重ねることによって初めて身についていくのが見える形になっていくのかなというふうに思います。この過程を蓄積するツールとして e ポートフォリオが注目を集めているのだと思います。

ポートフォリオを導入するときに、先ほども言いましたけれども、やはり「目的をどうするか」です。この 1 枚前のスライドで見せた力がありますが、こんなにたくさんの力を一遍につけられるのか。つけられるわけがないと私は思っています。なので、まずキャリアのことを考えたときに、自分たちは何の力をつけようと思うのかということに優先順位を決めたほうがいいんじゃないかというふうに個人的には思っております。

キャリアのことを考える上で、まずは必要な情報も蓄積しないとイケませんよね。もちろんこれは自分のことを理解したり、自己分析にもつながります。あと、やはり自分の PR のネタ帳だってどこかにあったほうがいいよね。すぐ忘れちゃいますから。あんなに感動したなど、感動したことを覚えていても、何に感動したか忘れたとか、すごく怒ったことを覚えているんだけど、何に対して怒ったか忘れちゃったとか、結構意外に忘れっぽくできているんだと思うんです。なので、やはりどこかに書きとめておいたほうが、振り返るときにはとても便利なんじゃないかと。その振り返ることによって、自分のなりたい自分を考える訓練にもなるんじゃないかなと思うわけですね。

どんなキャリアポートフォリオを描くかは、取り組む大学さんにおいて、考える必要があります。しかし、あまり欲張らないほうがいいと思っております。先ほど紹介しましたが、100 大学ぐらいがポートフォリオを入れたと聞くと、ポートフォリオを入れさえ

すれば大丈夫なんじゃないかと錯覚をする大学さんもあると思います。こちらの取り組みはそういうことは一切なく、大変よく勉強されているので、大変すばらしいポートフォリオシステムで、取り組みが実になるんじゃないかと楽しみにしているところです。ポートフォリオというのは万能薬ではありません。ただのツールです。ですから、各機関に適した、目的に合ったポートフォリオというものを構築していく必要があると思います。

国内で一番有名なポートフォリオといったときに、まずよく名前が出てくるのが、金沢工業大学さんだと思います。金沢工業大学さんも 10 年かけて今の形をつくられてきています。もしご覧になった方がいると、わかると思うんですけども、最初は 1 つのポートフォリオ、修学ポートフォリオから始まって、キャリアポートフォリオや達成度評価ポートフォリオというように、どんどん広がってきているという歴史を持っております。なので、まず自分たちが何を目的にポートフォリオを導入して、学生たちに何を身につけさせたいのかということ欲張らずに考えていくことも大事なのかなと思います。

簡単に、本学の取り組みの例を紹介させていただきます。

ここしばらく、2、3 枚、資料にはないんですけども、本学の背景をちょっと説明させていただきます。

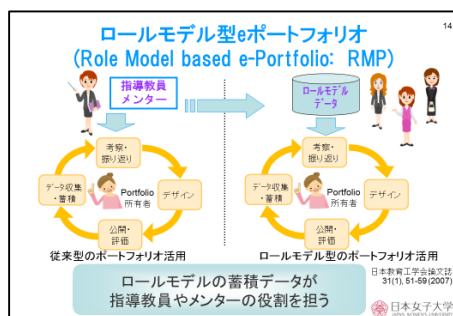
本学は 1901 年に開学されました。一般的に、女子大学という名前がついていると、お嫁さんを育てる学校かなという印象が強いかなと思うんですけども、津田塾大学さんも決してそういう大学ではございませんけれども、本学も、職業婦人を育てる大学としてスタートしております。

本学は、女子大学としては規模が大きくて、幼稚園から大学院まで備えております。大学、大学院の学生数は 6,400 名規模の女子大学です。もちろん女子しか学生はおりません。でも、先生は男性がたくさんいます。それでも、家政学部は男性の先生は半分ぐらい、理学部に至っては 3 割が女子、7 割が男性の先生な

ので、こういうところでも女性の進出が進むといいなと女子大学の人間としては思っているところです。学部は4学部ある総合大学で、歴史も長く、卒業生もたくさん輩出しているのが本学の特徴と言えると思います。

そして、卒業生とのつながりも、いろいろなプロジェクトを採択していただいております。女子大学という特性から、女性はやはりライフイベントに左右されることが多いです。例えば、出産、育児、介護といったところで、やっぱり女性のほうがかかる時間が長いというのがありまして、そのライフイベントに対応して大学として支援できることはないかなということで、これまでいろいろなものを蓄積してきております。そういう意味でも、卒業生との結びつきが強いというのが本学の特徴であるかなと思っております。

そこで考えたといいたいいますか、思いたったといえればいいんでしょうか、それがロールモデル



型eポートフォリオというものになります。本来、ポートフォリオというのは、このサイクルが回るんですけども、例えば、ここで自分のやったものをまとめるために、デザインをする時に、ちょっとしたきっかけが欲しいわけです。今でしたら、恐らくライティングセンターの先生方とか、チューターの方、森ゼミだったら、まさに森先生とかが、いいコメントを下さるわけです。そうすると、自分にとってどんなことを考えればいいのかというフィードバックがとてもかけやすいような状況になります。でも、例えば、6,000人規模の大学で、先生がそれを一人ずつやれますかといったときに、ちょっと難しいということになります。私は、理系の技術屋なので、技術で解決できることないかなと、単純に思ったわけです。

先生の頭の中に入っている卒業生をデータベース化し、支援に使えないか。ロールモデルのデータを入れて、これを職業別とか、職種別に分類し、振り返りの材料として提供するようなことをシステムで実現いたしました。

キャリアデザインをするときのロールモデルというのは、やはり自己分析の足りない人からすると、お手本があるということはとても大事なそうです。リクルートワークス研究所からも、ロールモデルというのは自己分析がまだ未熟な場合、こういった具体的な目標設定というのは大変効果的であるというふうに言われておりまして、そういう意味でも、そういうロールモデルを提示してあげるということに意味があるのかなというふうに考えております。

実際に描いた構想は、こんな感じになります。学生たちがこのようにいて、自分の成績とか、業績とか、取得資格とかをこういうふうに入れます。それに対して先輩を参照するような形にしています。かつ、卒業生もたくさんいるわけですから、卒業した後も使ってくれたほうがいいよねという構想になっておりまして、卒業後は、さらにその上の卒業の先輩を参照するというような設計にしています。今、ポートフォリオも、もちろん学習ポートフォリオとかもありますけれども、生涯にわたって、自分の学びや経験を積んでいこうということで、ライフロングという表現をよく使うんですけども、ライフロングなポートフォリオを目指した設計になっております。

具体的にどういうふうに参照していったかという、簡単なんですけれども、数値化していきました。本来、ポートフォリオは数値化しないものだというふうに言われているんですけども、理系的なセンスで無理やり数値化しています。それを、業種・職種別に、ロールモデルのデータを数値化したものを赤い線で表示し、自分も同じように数値化した自分の現状をこのブルーのところの数値化することによって、現在の自分の足りているところ、足りていないところを表現していきました。

あとは、学校の中で使っているということがありますので、どんな科目をとったらいいかなということを、そのロールモデルのデータをベースにして、推奨科目の提示も行っています。

あとは、エントリーシートや、自己アピール文などを、文書解析し、学生さんにフィードバックをかけていくというようなこともやっております。

さらに、女性研究者マルチキャリアパス支援モデルという女性研究者を育成するプロジェクトにもこのポートフォリオを導入いたしましたので、その中で研究者の能力値みたいなのをポートフォリオで表現していつてあげましょうという取り組みを行いました。実際に取り込んだのは、人材派遣や、職業紹介をやっている企業から、理系の方だったら、こういう情報が入っているといいですよということを教えていただいて、それをポートフォリオの中に蓄積できるようにしました。

利用者からは、いろいろなキャリアパスの先輩と比較することで、進路を決定する材料にできたとの声を頂きました。本システムはキャリア教育というより、キャリアデザインをするための支援に使っていると言えるかなと思います。ですので、先ほどの文科省の資料からいくと、多分、本学は事業の基本的なところを入れておりますから、基本的な知識とこの辺は一応蓄積されていて、あと自己理解、自己分析と、自分の将来をロールモデルを参考に少し考えていくといったようなシステムになっているんじゃないかなと思っております。

ただ、それだけではなくて、ポートフォリオのサイクルを回すということがとても大切で、そうすると、先ほどメタ認知という言葉をちょっと使ったんですけども、自分を客観視することで、まさに先ほど森先生から習慣を見るという話があったと思いますが、自分を客観視すると、自分がどういう習慣、どういう思考回路を持っている人間なのかということを気がつくきっかけにもなるんですね。なので、このポートフォリオを回すということは、ための情報とうまく

結びつけていくと、どんな対象にも、ポートフォリオを使うことで育成することができるんじゃないかなというふうに期待できます。

最後に、紹介ということなので、特に何かまとめられるものがあるわけではありませんけれども、システムを構築していくときの注意事項といいますか、私自身も気にしているところは、やはり持続可能なシステムにするということが何よりも一番大切かなと思っております。そのときに、一番最初にも申し上げましたが、目的を明確にする。目的が明確になるということは、対象も明確になるということだとも思います。あとは、この体制で実施していくときの人の配置、費用、システムのメンテナンスをどうするとか、そういったこととかもやはり長期にわたって運用のことも考えたほうがいいのかなというふうに思います。

本学はやはり人的なリソースが大変限られているということで、ある程度システムに頼ったほうがいいんじゃないかということもありまして、システム的なサポートを積極的に入れる構成になっています。それに対して入力項目、あとは持続させる工夫というものがようになってくるんじゃないかなと思います。

ポートフォリオというのは、そう簡単にすぐ成果の出るものではありません。なので、できることから地道に取り組んで、焦らず、じっくり取り組んでいけるといいかなと思っております。